

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 研究開発機器等設備整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 7,092 千円 (前年度予算額：6,730 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,730	0	0	0	0	0	0	0	6,730
要求額	7,092	0	0	0	0	0	0	0	7,092
決定額	6,737	0	0	0	0	0	0	0	6,737

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林研究所においては、「健全で豊かな森林づくりの推進」、「林業及び木材産業の振興」を支援する研究開発に取り組んでいるが、研究機器等の老朽化や能力不足のため、業界や行政からの要望や課題等に十分応えることが困難となってきた。

県内産業に「役立つ研究開発と質の高い技術支援」を提供するため、先端的研究の実施に必要となる研究関連施設の整備を行う。

(2) 事業内容

○高精度GNSS受信機(新規) 1台

【要求理由】

航空レーザー測量データなどを用いて森林の林相や微地形の解析を行う際に、地上の位置を高精度で測位するために使用する。

所有するハンディGPSは、森林内では5～15mの誤差、簡易GNSS受信機では2～10mの誤差が生じ、解析に使用できない。現在は調査の都度、共同研究を実施している岐阜大学から借用しているが、使用には制約があり調査効率が著しく悪いことから、高精度GNSS受信機の整備が必要である。

○角型真空定温乾燥機(新規) 1式

【要求理由】

木材の減圧乾燥のスケジュール試験を実施するために使用する。

減圧乾燥は、木材の乾燥速度の向上や変色の抑制が期待できる方法である。当所には実大サイズの減圧乾燥装置があるが、開放機器利用による使用頻度が高いこと、容量が大きいため稼働に要する経費が高額になること、減圧乾燥の細かい挙動データは小試験体でも測定可能なことから、小試験体で減圧乾燥可能な当該装置の整備が必要である。

○小型凍結乾燥機（新規） 1台

【要求理由】

樹木病害の病原菌の種同定をDNA解析で行う際に、菌糸を凍結乾燥してDNA抽出するために使用する。

現有する凍結乾燥機は、他研究課題でシイタケの子実体や菌床を凍結乾燥するために常時用いられている。また、これを兼用して使用すると、試料が混入する危険があるため、新たに凍結乾燥機の整備が必要である。

○クリーンベンチ（更新） 1台

【要求理由】

無菌下で病原菌の分離、培養等の操作を行うために使用する。

現有機種は平成4年度に購入してから29年経過しており、クリーンベンチ内側のプラスチック部品が劣化し、ひび割れており、清浄性が低下している恐れがある。製造終了から時間が経過し、部品の供給ができず、修理ができないことから、更新する必要がある。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	7,092	高精度GNSS受信機 1,199千円 角型真空定温乾燥機 2,500千円 小型凍結乾燥機 1,884千円 クリーンベンチ 1,509千円
合計	7,092	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

先端的研究を行うために必要となる研究関連施設等の整備により、研究業務の充実・停滞防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

研究所における研究業務の効率化・合理化を図るための施設整備等を行う事業であるため、指標の設定は困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	キノコ個別培養制御装置、生物顕微鏡システム、光量子測定装置を購入した。 老朽化した機器の更新や、研究に必要な機器の新規導入により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。
令和 3 年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない 	
(評価) 3	研究の効率化や企業等が求める研究を推進するため、研究機器や施設の整備は必須の事業である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	研究機器や施設を整備することで、企業や県民が求める研究が効率的に推進できており、事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている 	
(評価) 1	先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実にっては、整備の緊急性や必要性等を総合的に判断し、優先順位を付けたうえで効率的に整備している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究所の研究施設等は老朽化しているものが多く、整備には多額の費用が必要となることから、予算が不足することが課題である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 着実に研究成果を上げ、研究業務に支障を来さないようにするためには、継続的な研究機器の整備が必要である。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】